

(仮称)株式会社日新三重工場増設事業に係る簡易的環境影響評価書に対する
松阪市長意見

環境と経済と社会の調和のとれたサステナブルな社会形成において、地域住民や動植物への影響を十分に考慮することで、戦略的な環境影響評価を進めることができます。また、積極的な説明責任を果たすことで、問題を未然に防ぎ、前向きな対応が期待されることは開発事業としての模範となる努力が重要となります。

三重県は環境や温暖化対策、生物多様性保全で先進的に取り組み、SDGs 未来都市にも選定されていることから、大気質や温室効果ガスにおける NOx、SOx、PM の影響が少なく森林の伐採や車両や機械の稼働による CO2 排出においてもゼロエミッションを目指して戦略的に進められたい。

また、「ミッションゼロ 2050 みえ」も宣言していることから、工場増設に伴う電力消費量の増加についても脱炭素の観点から対策を示されたい。

生態系変化の評価に関する記述について、具体的には栄養段階の低い生産者や一次消費者は生息地が一部改変されても、個体群の存続は可能であることが多いですが、これらを摂食する二次消費者や三次消費者というように、栄養段階が高くなるほど影響が大きくなります。したがって、サシバのような上位消費者に対する影響が部分的でトノサマガエルやバッタ類への影響が比較的大きいとすることは誤りであり、上位消費者ほど影響が顕著に現れるため、この評価は科学的ではなく、見直しが必要と思われるので検討されたい。

更にサシバは三重県の指定野生動植物種であり、特に注意を必要とされたい。

騒音調査で交通騒音 ASJ の RTN モデル 2018 を使用しているが、最新の RTN モデル 2023 を使用し調査を行う方が信頼度が高まるため対応されたい。

景観や人と自然とのふれあいの活動の場への影響というのはかなり部分的あるいは限定的であるため現状のとおり努められたい。